

大鹿村中央構造線博物館たより 161号



2022年10月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

塩見岳への登山道で見られる岩石

8月下旬に豊口登山口から塩見岳まで行ってきました。あいにく好天には恵まれず、景色はほぼ真っ白でしたが、岩石の写真は撮影できました(写真1~4)。豊口登山口から塩見岳までの登山道沿いには、緑色岩、石灰岩、チャート、泥岩、砂岩などが分布しています。特に、豊口登山口付近では石灰岩(写真1)、三伏山山頂では砂岩(写真2)、塩見小屋から塩見山頂に行く間にはチャート(写真3)、塩見岳山頂付近は緑色岩(写真4)が良く見られます。砂岩が分布するところでは、砂岩と泥岩が交互に見られることもあります。



写真1 鳥倉林道沿いの石灰岩岩壁



写真2 三伏山山頂の砂岩



写真3 塩見小屋の先、天狗岩付近の赤色チャート



写真4 塩見岳西峰と周囲の緑色岩

これらの岩石は、かつて日本がアジア大陸の一部にあった頃、海洋プレートが大陸の下に沈みこむときに、海洋プレート上の堆積物や、海洋プレート表面の海洋地殻の一部がはぎとられ、大陸に付加したもので、付加体と呼ばれます(図1)。(宮崎)

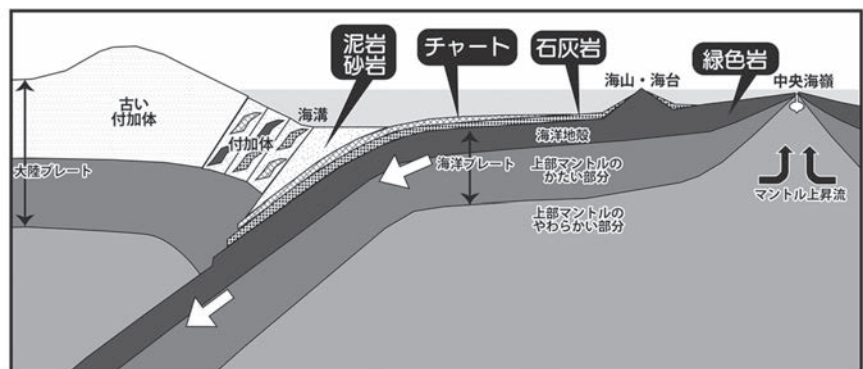


図1 海洋地殻をつくっている緑色岩や、海洋プレート上の堆積物(石灰岩・チャート・泥岩・砂岩)が大陸に付加した。